目次

〔宇治拾遺物語序〕……一

上巻

一　道命阿闍梨、於二和泉式部之許一読経、五条道祖神、聴聞事（一―一）……三
二　丹波国篠村、平茸生事（一―二）……四
三　鬼ニ瘻被レ取事（一―三）……五
四　伴大納言事（一―四）……八
五　随求陀羅尼籠レ額法師事（一―五）……九
六　中納言師時、法師之玉茎検知事（一―六）……一〇
七　龍門聖、鹿ニ欲レ替事（一―七）……一一
八　易之占メ金取出事（一―八）……一三
九　宇治殿、倒レサセ給テ、実相房僧正、験者ニ被レ召事（一―九）……一四
一〇　秦兼久、向二通俊卿許一、悪口事（一―一〇）……一五
一一　源大納言雅俊、一生不犯金打セタル事（一―一一）……一六
一二　児ノ、カイ餅スルニ空寝シタル事（一―一二）……一七
一三　田舎児、桜ノ散ヲ見泣事（一―一三）……一七
一四　小藤太、聟ニオドセ（マヽ）レタル事（一―一四）……一八
一五　大童子、鮭ヌスミタル事（一―一五）……一九
一六　尼、地蔵奉レ見事（一―一六）……二〇
一七　修行者、逢二百鬼夜行一事（一―一七）……二一
一八　利仁、暑預粥事（一―一八）……二三
一九　清徳聖、奇特事（二―一）……二九
二〇　静観僧正、祈レ雨、法験事（二―二）……三一
二一　同僧正、大嶽ノ岩祈失事（二―三）……三三
二二　金峯山薄打事（二―四）……三三
二三　用経、荒巻事（二―五）……三四
二四　厚行、死人ヲ家ヨリ出ス事（二―六）……三八
二五　鼻長僧事（二―七）……三九
二六　晴明、封二蔵人少将一事（二―八）……四一
二七　季通、欲レ逢レ事事（二―九）……四三
二八　袴垂、合二保昌一事（二―一〇）……四六
二九　明衡、欲レ逢レ殃事（二―一一）……四七
三〇　唐卒都婆ニ血付事（二―一二）……四九
三一　ナリムラ、強力ノ学士ニ逢事（二―一三）……五二

三二　柿木ニ仏、現ズル事（二―一四）……五四
三三　大太郎、盗人事（三―一）……五五
三四　藤大納言忠家物言女、放尾事（三―二）……五六
三五　小式部内侍、定頼卿ノ経ニメデタル事（三―三）……五八
三六　山伏、舟祈返事（三―四）……五九
三七　鳥羽僧正与二国俊一戯事（三―五）……六〇
三八　絵仏師良秀、家ノ焼ヲ見テ悦事（三―六）……六三
三九　虎ノ鰐取タル事（三―七）……六三
四〇　樵夫、歌事（三―八）……六四
四一　伯母事（三―九）……六五
四二　同人、仏事事（三―一〇）……六七
四三　藤六事（三―一一）……六七
四四　多田新発郎等事（三―一二）……六八
四五　因幡国別当、地蔵作差事（三―一三）……六九
四六　伏見修理大夫俊綱事（三―一四）……七〇
四七　長門前司女、葬送時、帰二本処一事（三―一五）……七三
四八　雀、報恩事（三―一六）……七四
四九　小野篁、広才事（三―一七）……七八
五〇　平貞文・本院侍従等事（三―一八）……七九

五一　一条摂政、歌事（三―一九）……八一
五二　狐、家ニ火付事（三―二〇）……八二
五三　狐、人ニ付テシトギ食事（四―一）……八三
五四　佐渡国ニ有レ金事（四―二）……八四
五五　薬師寺別当事（四―三）……八五
五六　妹背嶋事（四―四）……八六
五七　石橋下蛇事（四―五）……八七
五八　東北院菩薩講聖事（四―六）……九一
五九　三川入道、遁世之間事（四―七）……九三
六〇　進命婦、清水詣事（四―八）……九四
六一　業遠朝臣、蘇生事（四―九）……九五
六二　篤昌・忠恒等事（四―一〇）……九五
六三　後朱雀院、丈六仏奉レ作給事（四―一一）……九六
六四　式部大夫実重、賀茂御正体拝見事（四―一二）……九七
六五　智海法印、癩人法談事（四―一三）……九七
六六　白川院、御寝時、物ニヲソワレサセ給事（四―一四）……九八
六七　永超僧都、魚食事（四―一五）……九八
六八　了延房ニ実因、自二湖水中一、法文之事（四―一六）……九九
六九　慈恵僧正、戒壇築タル事（四―一七）……九九

七〇　四宮河原地蔵事（五―一）……一〇〇
七一　伏見修理大夫許へ殿上人共行向事（五―二）……一〇一
七二　以長、物忌事（五―三）……一〇三
七三　範久阿闍梨、西方ヲ後ニセザル事（五―四）……一〇三
七四　陪従家綱兄弟、互ニ謀タル事（五―五）……一〇四
七五　陪従清仲事（五―六）……一〇六
七六　仮名暦誂タル事（五―七）……一〇七
七七　実子ニ非ザル人、実子の由シタル事（五―八）……一〇八
七八―一　御室戸僧正事（五―九）……一一一
七八―二　一乗子（マヽ）僧正事（五―九）……一一一
七九　或僧、人ノ許ニテ氷魚盗食タル事（五―一〇）……一一三
八〇　仲胤僧都、地主権現説法事（五―一一）……一一四
八一　大二条殿ニ、小式部内侍、奉二歌読懸一事（五―一二）……一一五
八二　山横川賀能地蔵事（五―一三）……一一五
八三　広貴、依二妻訴一炎魔宮へ被レ召事（六―一）……一一七
八四　世尊寺ニ死人ヲ堀出事（六―二）……一一八
八五　留志長者事（六―三）……一一九
八六　清水寺ニ二千度参詣者、打二入双六一事（六―四）……一二一
八七　観音経、化レ蛇、輔レ人給事（六―五）……一二三
八八　自二賀茂社一御幣紙・米等、給事（六―六）……一二五
八九　信濃国筑摩湯ニ、観音、沐浴事（六―七）……一二六
九〇　帽子叟、与二孔子一問答事（六―八）……一二八
九一　僧伽多、行二羅刹国一事（六―九）……一二九
九二　五色塵（鹿）事（七―一）……一三四
九三　播磨守為家侍、佐多事（七―二）……一三六
九四　三条中納言、水飯事（七―三）……一三九
九五　検非違使忠明事（七―四）……一四〇
九六　長谷寺参籠男、預二利生一事（七―五）……一四一
九七　小野宮、大饗事（付西宮殿・富小路大臣等大饗事）（七―六）……一四七
九八　式成・満・則員等、三人被レ召二滝口一、弓芸事（七―七）……一四九
九九　大膳大夫以長、前駈之間事（八―一）……一四九
一〇〇　下野武正、大風雨日、参二法性寺殿一事（八―二）……一五〇
一〇一　信濃国聖事（八―三）……一五一
一〇三　敏行朝臣事（八―四）……一五六
一〇三　東大寺花厳会事（八―五）……一六一

下　巻

一〇四　猟師、仏ヲ射事（八―六）……一六三
一〇五　千手院僧正、仙人ニ逢事（八―七）……一六四

一〇六　滝口道則、習レ術事（九―一）……一六四
一〇七　宝志和尚、影事（九―二）……一六八
一〇八　越前敦賀女、観音、助給事（九―三）……一六九
一〇九　クウスケガ仏供養事（九―四）……一七六
一一〇　ツネマサガ郎等、仏供養事（九―五）……一七九
一一一　歌読テ被レ免レ罪事（九―六）……一八二
一一二　大安寺別当女ニ嫁スル男、夢見事（九―七）……一八三
一一三　博打子、聟入事（九―八）……一八四
一一四　伴大納言、焼二応天門一事（一〇―一）……一八五
一一五　放鷹楽、明暹ニ是季ガ習事（一〇―二）……一八八
一一六　堀河院、明暹ニ笛吹サセ給事（一〇―三）……一八八
一一七　浄蔵ガ八坂坊ニ、強盗、入事（一〇―四）……一八九
一一八　播磨守子サダユフガ事（一〇―五）……一九〇
一一九　吾嬬人、止二生贄一事（一〇―六）……一九一
一二〇　豊前王事（一〇―七）……一九七
一二一　蔵人、頓死事（一〇―八）……一九八
一二二　小槻当平事（一〇―九）……一九九
一二三　海賊、発心・出家事（一〇―一〇）……二〇一
一二四　青常事（一一―一）……二〇五
一二五　保輔、盗人タル事（一一―二）……二〇七
一二六　晴明ヲ心見僧事（一一―三）……二〇七
一二七　晴明、殺付レ蛙事（一一―三付）……二〇九
一二八　河内守頼信、平忠恒ヲ責事（一一―四）……二一〇
一二九　白河法皇北面、受領ノ下リノマネノ事（一一―五）……二一二
一三〇　蔵人得業、猿沢池竜事（一一―六）……二一三
一三一　清水寺御帳給ル女事（一一―七）……二一四
一三二　則光、盗人ヲ切事（一一―八）……二一六
一三三　空入水シタル僧事（一一―九）……二一九
一三四　日蔵上人、吉野山ニテ逢レ鬼事（一一―一〇）……二二一
一三五　丹後守保昌、下向ノ時、致経ガ父逢事（一一―一一）……二二二
一三六　出家、功徳事（一一―一二）……二二三
一三七　達磨、見二天竺僧行一事（一二―一）……二二四
一三八　提婆菩薩、参二竜樹菩提[薩]許一事（一二―二）……二二五
一三九　慈恵僧正、延引二受戒之日一事（一二―三）……二二六
一四〇　内記上人、破二法師陰陽師紙冠一事（一二―四）……二二七
一四一　持経者叡実、効験事（一二―五）……二二八
一四二　空也上人臂、観音院僧正、祈直事（一二―六）……二二九
一四三　僧賀上人、参二三条宮一振舞事（一二―七）……二三〇

一四四　聖宝僧正、渡二一条大路一事（一二―八）……二三二
一四五　穀断聖、不実露顕事（一二―九）……二三三
一四六　季直少将、歌事（一二―一〇）……二三四
一四七　樵夫小童、隠題歌読事（一二―一一）……二三四
一四八　高忠侍、歌読事（一二―一二）……二三五
一四九　貫之、歌事（一二―一三）……二三六
一五〇　東人、歌事（一二―一四）……二三六
一五一　河原院ニ、融公霊、住事（一二―一五）……二三七
一五二　八歳童、孔子問答事（一二―一六）……二三八
一五三　鄭大尉事（一二―一七）……二三八
一五四　貧俗、観二仏性一審事（一二―一八）……二三九
一五五　宗行郎等、射レ虎事（一二―一九）……二四〇
一五六　遣唐使子、被レ食レ虎事（一二―二〇）……二四一
一五七　或上達部、中将之時、逢二召人一事（一二―二一）……二四三
一五八　陽成院、妖物事（一二―二二）……二四五
一五九　水無瀬殿、鼯事（一二―二三）……二四六
一六〇　一条桟敷屋、鬼事（一二―二四）……二四七
一六一　上緒主、得レ金事（一三―一）……二四七
一六二　元輔、落馬事（一三―二）……二五〇
一六三　俊宣、合二迷神一事（一三―三）……二五一
一六四　亀ヲ買テ放事（一三―四）……二五二
一六五　夢買人事（一三―五）……二五三
一六六　大井光遠妹、強力事（一三―六）……二五五
一六七　或唐人、女ノ生タル不レ知ノ殺事（一三―七）……二五七
一六八　上出雲寺別当、父ノ鯰ニ成タルヲ知ナガラ殺テ食事（一三―八）……二五八
一六九　念仏僧、魔往生事（一三―九）……二六〇
一七〇　慈覚大師、入二頴頴城一給事（一三―一〇）……二六二
一七一　渡天僧、入レ穴事（一三―一一）……二六四
一七二　寂昭上人、飛レ鉢事（一三―一二）……二六五
一七三　清滝河聖事（一三―一三）……二六六
一七四　優婆崛多弟子事（一三―一四）……二六七
一七五　海雲比丘弟子童事（一四―一）……二六九
一七六　寛朝僧正、勇力事（一四―二）……二七一
一七七　経頼、蛇ニ逢事（一四―三）……二七三
一七八　魚養事（一四―四）……二七五
一七九　新羅国后、金榻事（一四―五）……二七六
一八〇　珠ノ価、無レ量事（一四―六）……二七七
一八一　北面女雑使、六事（一四―七）……二八一

一八二　仲胤僧都、連歌事（一四―八）……二八二
一八三　大将、慎事（一四―九）……二八三
一八四　御堂関白御犬・晴明等、奇特事（一四―一〇）……二八四
一八五　高階俊平ガ弟入道、竿（マヽ）術事（一四―一一）……二八五
一八六　清見原天皇、与ニ大友皇子一合戦事（一五―一）……二八九
一八七　頼時ガ、胡人見タル事（一五―二）……二九一
一八八　賀茂祭帰サ、武正・兼行御覧事（一五―三）……二九三
一八九　門部府生、海賊射返ス事（一五―四）……二九四
一九〇　土佐判官代通清、人違メ関白殿ニ奉レ逢事（一五―五）……二九六
一九一　極楽寺僧、施ニ仁王経験一事（一五―六）……二九六
一九二　伊良縁野世恒、給ニ毗沙門御下文一事（一五―七）……二九八
一九三　相応和尚、上ニ都卒天一事付染殿后奉レ祈事（一五―八）……二九九
一九四　仁戒上人、往生事（一五―九）……三〇一
一九五　秦始皇、自ニ天竺一来僧禁獄事（一五―一〇）……三〇三
一九六　後之千金事（一五―一一）……三〇四
一九七　盗跖、与ニ孔子一問答事（一五―一二）……三〇五

一　序文だけ後人が付けたもの。
二　現存しない。
三　源隆国（一〇〇四～一〇七七）。正二位権大納言。
四　源高明（九一四～九八二）。醍醐天皇皇子。正二位左大臣。安和の変で左遷。
1　云…いふ
五　インド。
2　有…あり
六　フィクション。
七　しゃれなど、即興の文句が上手なこと。
3　様〳〵…×
八　一説に源隆国の玄孫俊定という。
4　入…いれ
5　書…かき
6　ほど…程
7　入…いれ
8　厥…其

〔宇治拾遺物語序〕

世に、宇治大納言物語[二]といふ物あり。此大納言は、隆国[三]といふ人なり。西宮殿（ニシノミヤドノ）高明[四]の孫、俊賢大納言の第二の男なり。年たかうなりては、あつさをわびて、いと（48―5）まを申て、五月より八月までは、平等院一切経蔵の南の山ぎはに、南泉房と云[1]所に、こもりゐられけり。さて、宇治大納言とはきこえけり。

もとゞりをゆひわげて、〔おかしげなる姿にて〕むしろ[莚]をいたにしきて、〔すゞみゐはべりて〕、大なる打輪（ウチワ）を〔もてあふがせなどして、往来（ゆきき）の物〕、上中下をいはず、〔よびあつめ〕、昔物語をせさせて、我は内にそひふして、かたるにした（48―10）がひて、おほきなる双紙（さうし）にかゝれけり。

天竺[五]の事も有[2]、大唐の事もあり、日本の事もあり。それがうちに、たうとき事もあり、おかしき事もあり、おそろしき事もあり、あはれ[哀]なる事もあり、きたなき事もあり。少々はそら[空]物語[六]もあり、利口[七]なる事もあり、さま〴〵[様々]様〳〵[3]なり。

世の人、これ[是]をけうじみる[興]。十四帖[帖]なり。その正本はつたはりて、侍従（ジジウ）俊貞[八]といひ（48―15）し人のもとにぞありける[有]。いかになりにけるにか、後に、さかしき人々かき[書]入[4]たるあひだ、物語おほく[多]なれり。大納言より後の事書[5]入たる本もあるにこそ。（49―1）

さるほど[6]に、いまの世[今]に、又物がたりかき[語書][7]入たる、いでき[出来]たれり。大納言の物語にもれたるをひろひあつめ[集]、又厥[8]後の事など、かきあつめ[集]たるなるべし。名を宇治拾遺の物語[がたり]と

9 云…いふ
10 つけ…付
九 侍従の唐名。
一〇 以下『日本古典文学大系』は、次の本文を採用。
宇治拾遺物がたりといへるにや、差別（しやべつ）しりがたし。おぼつかなし。

云。宇治にのこれるをひろふとつけたるにや。又、侍従を拾遺といへば、侍従大納言はべるをまなびて　といふ事しりがたし。　にや、おぼつかなし。（49―5）

*『古事談』二三一
一 だうみやう（九七四―一〇二〇）。藤原道綱の子。天台宗の僧。
二 平安中期の歌人。恋愛遍歴でも有名。
1 めでた…目出
2 程…ほど
3 ほど…程
4 此…この
5 うけたまはり…承
6 くして…くて
三 …梵天・帝釈ともに仏法の守護神。もとはインドの神。
7 参…まいり
8 たまは…給
9 読…讃〔読歌〕
四 源信（九四二～一〇一七）。天台宗の高僧。僧都。

三本対照

宇治拾遺物語

（抄出之次第不同也）

一　道命阿闍梨、於和泉式部之許読経、五条道祖神、聴聞事　一―一*

今はむかし、「道命阿闍梨」とて、（道綱嗣、法興院摂政息也）傳殿の子に、色にふけりたる僧ありけり。和（53―7）泉式部に通けり。経をめでたく読けり。それが和泉式部がりゆきて、ふしたりけるに、目さめて、経を心をすましてよみける程に、八巻よみはてゝ、暁にまどろまんとするほどに、「人のけはひのしければ、「あれはたれぞ」と問ければ、「をのれは五（53―10）条西洞院の辺に候翁に候」とこたへければ、「こは何事ぞ」と道命いひければ、「此御経をこよひうけたまはりぬる事の、世々生々、わすれがたく候」といひければ、道命、「法花経をよみたてまつる事は常の事也。など、こよひしもいはるゝぞ」といひければ、五条の斎いはく、「清くしてよみまいらせ給時は、梵天・帝釈をはじめたてまつりて、聴聞せさせ給へば、翁などは、ちかづき参〇て、うけたまはるにをよび候（53―15）はず。こよひは、御行水も候はで、よみたてまつらせ給へば、梵天・帝釈も御聴聞候はぬひまにて、おきなまいりよりて、うけたまはり〇さふらひぬる事の忘がたく候也」（54―1）とのたまひけり」。

されば、はかなく、さはよみたてまつるとも、きよくてよみたてまつるべき事なり。「念仏、読経、四威儀をやぶる事なかれ」と、恵心の御房も、いましめ給〇にこ